

令和5年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】

新しい価値と可能性を追究する教育を実践し、多様性を尊重し自立できる子どもを育てる

【学校 目標】

○自ら学び、思いや考えを伝え合うことのできる子どもの育成 ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

【現状と課題】

○視点1 与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができるが、自ら学ぼうとする力が弱い。一人一台端末の効果的な活用を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続させる必要がある。
 ○視点2 他者と共同し、主体的に学ぶ学習の研究を通して、学び合う集団作りに努めている。基本的な自尊感情を育てることで、さらに自己肯定感をもって学習に臨める集団を作る必要がある。
 ○視点3 校内OJT組織を中心に、若手教員の指導力を高める必要がある。

取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり

| 取組事項 | 評価指標 | 1回目 評価 | 2回目 評価 |
|--|---|-----------|-----------|
| ①校内研究では、ICT機器の積極的な活用を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。 ②「話し手の顔を見て考えながら話を聴く姿勢」を習慣化させる。 ③ねらいに通じる「めあて」を提示することで見通しをもって授業に参加させるとともに、ふり返りをしっかりと行い、自己評価と新たな課題の設定へとつなげる。 | ・ICT機器の活用を踏まえた学びに関する、教職員評価、児童アンケートを実施(1回目)教職員評価、保護者・児童アンケートを実施(2回目) | | |
| | ・児童の話す聴く姿の共通理解と教職員、児童評価を実施。 | | |
| | ・学力学習状況調査の質問紙に合わせた「めあて」と「ふりかえり」の評価の実施。 | | |

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり

| 取組事項 | 評価指標 | 1回目 評価 | 2回目 評価 |
|--|------------------------------------|-----------|-----------|
| ①ありのままの自分を大切に思う基本的自尊感情と、互いを評価し尊重できる社会的自尊感情を育てる。 ②一人ひとりが活躍でき、満足感、成就感を味わうことができる授業を行う。 ③基本的な学習規律と学習の自立を再確認し、全職員で徹底する。 | ・自己肯定感を育てる学校全体の雰囲気作りと学級作り(児童アンケート) | | |
| | ・授業がわかりやすく楽しいかを見極める児童アンケートの実施 | | |
| | | | |

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり

| 取組事項 | 評価指標 | 1回目 評価 | 2回目 評価 |
|---|--|-----------|-----------|
| ①学び研究推進部会を中心とした授業研究と研修を行う。 ②「OJT推進リーダー」を中心とした研修にメンター制を導入し日々学び会える教師集団、若手の指導力向上を目指す。 | ・全学年による「主体的・対話的で深い学び」を追求する研究授業の実施。 | | |
| | ・OJT推進全体計画の策定と全体化。メンター制の中心となる若手教員の指名と実施。 | | |
| | | | |

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

・4月の学び推進部会及び職員会議において、学ぶ力向上推進リーダーが「学ぶ力向上策」について説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について協議する。
 ・全員で取り組む具体的な内容について共通理解し、視点1については学び研究推進部長と研究主任、視点2については特別活動主任、視点3については学び研究推進部長とOJT推進リーダーが中心となって、組織的に実践につなげる。
 ・定例職員会議では、取組の状況等を共有し、学校評価や、全国学力・学習調査等の調査における数値や意見等をもとに、改善策について(学び研究推進部、OJTグループ、教科部会等)でまとめ、後半の取組につなげる。

今年度の取組の成果と課題

| |
|--|
| |
|--|